時房まうできてとりつと申ければ、おどろきて院の御弓ぞ、とくかへせといひにつかはしたりければ、御弓につけてつかはしける歌、　藤原時房

あづさ弓さこそはそりの高からめはるほどもなくかへるべしやは

〔明月記〕貞永二年〇天福元年正月十一日丙辰、今日院御所小弓云々、是實之小弓也、近代往年雖有小弓、各其物□新物新作物也、非大弓、非小弓、中央物也、今復舊、尤可謂尋常之儀、

雜載

〔雲州消息上〕請嚴命事

藏人少將度々被招、是小弓事歟、懸物何珍哉、募以枸椽云々、百發百中之藝、雖無其能、於決雌雄何憚之有乎、一日以的爲皮、御和讒也、明朝於右大將軍幕下、可企佳遊之由、源少納言所被示也、被擇射的之輩云々、左、新中將、四位少將、藤少納言、源武衛、藤李部、右、權左中辨、右馬頭、源侍從、式部大夫、左金吾校尉等也、念人各五六輩、懸物銀鞍云々、盃盤之設前江州歟、雲客群遊令構故障、可作絶交論之由、頭中將所被定也、努力努力莫慕閉戸先生、悚息謹言、

姑洗日　左衛門佐高階

謹上藤拾遺尊閣座右

〔空穗物語樓の上下〕こゆみいたまふ日、大將の君たち、大とのへあまた參りたり、

〔源氏物語三十四若菜〕三月ばかりの空うらゝかなる日、六條院に兵部卿宮衛門督などまゐり給へり、おとゝ出給て御物語などし給、〇略中何わざしてかは、くらすべきなどの給ひて、〇略中いとさうざうしきを、例のこゆみいさせてみるべかりけり、

〔源氏物語三十五若菜〕殿上ののりゆみ、二月とありしをすぎて、三月はた御き月なれば、口をしと人々思ふに、この院にかゝるまとゐあるべしとき、つたへて、例のつどひ給ふ、左右大將さる御なからひにて參り給へば、すけたちなどいどみかはして、こゆみとの給しかど、かちゆみのすぐれた